

学術情報センター ニュース

第 25 号目次

《トピックス》

- ・ 韓国ソウル国立大学校中央図書館が
目録システムに接続 ……………2

《NACSIS サービス案内》

- ・ 学術情報センターシステムの利用資格の
拡大—大学等以外の研究者の方も利用
できます— ……………3
- ・ 「学術情報センターニュース」の
オンラインサービス ……………5
- ・ SINET ノードの拡大 ……………5
- ・ 学内 LAN などからの NACSIS—IR の
利用 ……………6
- ・ 個別版 CD—ROM の開発 ……………7
- ・ 「化学センサーデータベース」の
サービス開始 ……………10
- ・ 「学位論文索引データベース」の改訂 ……11
- ・ 「臨床症例データベース」の
サービス開始 ……………12
- ・ 「学術雑誌目次速報データベース（仮称）」
の形成 ……………13

- ・ 海外研究プロジェクトデータベースの
現状 ……………14
- ・ NACSIS サービス Q&A ……………15
- ・ NACSIS—IR データベース収納状況 ……18
- ・ 接続ニュース ……………19
- ・ NACSIS—CAT データベース構築状況
……………20

《教育・研修》

- ・ 平成 5 年度目録所在情報サービス
利用説明会の開催 ……………14

《講演会など》

- ・ 学術情報センター公開講演会開催 ……21
- ・ 学術情報センター学術講演会開催 ……21
- ・ 平成 5 年度学術情報センター
シンポジウム開催 ……………22

《その他》

- ・ 平成 5 年度前期会議などの報告 ……23
- ・ 人事異動 ……………23
- ・ 海外渡航一覧 ……………24
- ・ センター日誌 ……………24

韓国ソウル国立大学校中央図書館が目録システムに接続

昨年来、韓国ソウル国立大学校（以下ソウル大学という）から、学術情報センターの目録所在情報サービスを利用して韓国内に存在する日本語資料の総合目録を作成したいとの要請を受けてきた。これは、科学研究費補助金「東アジア文字データの国際交換に関する実証研究」において、ソウル大学の研究者を随時招聘し、意見交換を行ってきたことに起因される。その後、担当窓口を双方に配置し、電子メールやFAXを利用して接続を実現するための準備を進めてきたが、6月14、15日の2日間、ソウル大学中央図書館に宮澤教授、小林文部省学術情報課学術情報係長他3名が来訪し、接続作業などを行ってきた。

以下にソウル大学での目録システム接続に関する環境などについて説明する。

利用端末

学術情報センターでは目録システムの学内LANからの接続を可能とすべく、UNIX版UIP(XUIP)の開発を行ってきたが、今回の接続にはいち早くこのソフトウェアを利用することになり、日本語版UNIXを搭載した次のワークステーションをソウル大学側で準備した。

ハードウェア：SUN Model SDT-400

ソフトウェア：SunO/S 4.1.2、日本語版 UNIX JLE 1.1.2、
日本語版 Open Window

接続形態

学術情報センターおよびソウル大学の双方が、インターネットで米国に接続されていることから、次のような経路で接続が可能となった。

ソウル大学中央図書館 — SNUnet — 韓国テレコム
学術情報センター — SINET — NASA/ARC

注) SNUnet : ソウル大学の学内LANの名称

NASA/ARC : 米国西海岸にあるアジア・大洋州の接続拠点

インストール作業およびデモンストレーション

当センターが作成したXUIPのソフトウェアを1/4カートリッジテープで持参し、インストール作業を行った。その後、インターネットを利用して当センターの目録システムの接続およびデモンストレーションを行った結果、レスポンス時間以外は問題なく動作した。レスポンス時間の問題は、韓国と米国間の回線速度が56Kbpsであることに起因していたが、6月30日に256Kbpsに増強されたことから、現在では日本国内と同様のレスポンス時間となっている。熱心に操作するソウル大学中央図書館の職員



今後の対応

現在は、目録所在情報システムに教育モードで接続されているが、今秋にはソウル大学中央図書館の担当者が目録システム講習会を受講に来日することから、その後、本格的な利用が期待される。
(国際事業室)

学術情報センターシステムの利用資格の拡大

—大学等以外の研究者の方も利用できます—

学術情報センターは、文部省の大学共同利用機関として設置され、学術研究情報を迅速かつ的確に研究者に提供することを目的とし、これまで大学、大学共同利用機関等の研究者に対し、各種データベースの情報検索サービスおよび電子メールなどのサービスを提供してまいりましたが、平成5年8月1日から表1に掲げる学術研究などを行う機関等の研究者、学会の正会員の方にもサービスを提供することといたしました。利用できるデータベースは、現在、学術情報センターが提供している39種類のデータベースのうち、表3に掲げる24種類であります。今後、学術研究の動向、研究者のニーズなどを見極めながら、さらに充実していく予定であります。

また、従来、大学等の図書館に対して提供してきた目録所在情報サービスについて、学術情報を扱う大学等以外の表2に掲げる図書館にも同時にサービスを提供することといたしました。

これを機会に、多くの研究者の方が利用されることを期待しております。

1. 新たに利用を認める範囲

表1 情報検索サービスおよび電子メールなどのサービス

1	文部省および文化庁の職員
2	国公立試験研究機関の研究職員および図書館職員
3	特殊法人の研究機関の研究職員および図書館職員
4	学術研究法人の研究職員および図書館職員
5	大学に相当する教育施設の教員および図書館職員
6	研究助成法人の研究助成担当職員
7	学会の正会員
8	大学等との研究協力関係を有する民間企業の研究者
9	海外の高等教育・研究機関の研究職員等

(注) 電子メールなどのサービスについては、「研究職員および図書館職員」および「教員および図書館職員」を、「職員」と読み替えるものとする。

表2 目録所在情報サービス

1	国公立試験研究機関の図書館、図書室等
2	特殊法人の図書館、図書室等
3	学術研究法人の図書館、図書室等
4	大学に相当する教育施設の図書館、図書室等
5	学会の図書館、図書室等
6	都道府県、政令指定都市立の図書館
7	学術情報センターの事業に協力する機関の図書館、図書室等
8	その他前各号に準ずると認められる機関の図書館、図書室等

2. 公開する情報検索サービスのデータベース

現在下記のデータベースが利用できます。なお、新規にサービス開始するデータベースについては、センターニュースなどでご案内します。

表3 公開データベース一覧

	データベース名	経費区分
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	A
2	学位論文索引データベース	A
3	学会発表データベース	A
4	学術論文データベース第一系 (電子)	A
5	学術論文データベース第二系 (化学)	A
6	学術論文データベース第五系 (理学)	A
7	海外研究プロジェクトデータベース	A
8	民間助成研究成果概要データベース	A
9	経済学文献索引データベース	A
10	学会予稿集電子ファイル	A
11	維新史料綱要データベース	B
12	木簡データベース	B
13	研究者ディレクトリ	A
14	データベース・ディレクトリ	B
15	家政学文献索引データベース	B
16	RAMBIOS	B
17	化学センサーデータベース	B
18	目録所在情報データベース (和図書)	B
19	目録所在情報データベース (洋図書)	B
20	目録所在情報データベース (和雑誌)	B
21	目録所在情報データベース (洋雑誌)	B
22	アメリカン・センター図書館総合目録データベース	B
23	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	B
24	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	B

3. 利用料金

大学等の利用者と同様に、現行の料金表を適用します。

(1) 情報検索サービス

- ・経費区分A 接続料 50円/分、ヒット料 13円/件、
ファクシミリ出力 34円/枚
- ・経費区分B 接続料 30円/回

(2) 国際電子メールサービス 日本側発信メール 1Kバイト当たり 20円

4. 利用申請にあたって

情報検索サービスなどを利用するためには、申請が必要となります。詳細については、共同利用第二係(電話 03-3942-6934、FAX 03-3942-6797)までお問い合わせください。

(共同利用第二係)

「学術情報センターニュース」のオンラインサービス

学術情報センターニュース（刊行物、年4回発行）の記事をオンラインで公開するサービスを平成5年8月より開始しました。

なお、オンラインで提供するセンターニュースは第23号以降の文字情報に限られます。

利用者への提供は、次の2つの方法で行います。

電子掲示板サービス（NACSIS-BBS）による提供

電子掲示板サービスにセンターニュースの各記事を発行号毎に掲示板を作成して掲載します。

掲示板名称：NACSIS.NEWS.nn

（nn はセンターニュースの発行号数の番号になります。）

公開情報サービスによる提供

公開情報サービスにセンターニュースの各記事を発行号毎に1つのファイルに圧縮して保存しています。

ファイル名：/pub/nacsis-news/nn

（nn はセンターニュースの発行号数の番号になります。）

ファイル形式はUNIXの標準コマンドの「cpio」でアーカイブされています。

AnonymousFTPで転送したファイルを記事ごとのファイルに展開するには、次の方法で行います。

```
# cat getfilename | cpio -i "*"
```

（getfilename は AnonymousFTP で転送した時の受け取り側ファイル名を指定してください。）

電子掲示板サービスおよび公開情報サービスの詳細な利用方法は「電子メールシステム利用者マニュアル（第4版）」を参照してください。（システム管理係）

SINET ノードの拡大

平成5年6月24日、金沢大学パケット交換網ノードに集合型ルータを設置し、SINET ノードの運用を開始しました。これで全国13箇所にSINET ノードが整備されたこととなります。なお、金沢大学SINET ノードは、千葉大学、神戸大学、電気通信大学および横浜国立大学のSINET ノードと同じ運用形態をとっています。（ネットワーク係）

学内 LAN などからの NACSIS-IR の利用

1. 概要

情報検索サービス (NACSIS-IR) の学内 LAN などからの利用については、センターニュースNo22 (1992.12) で紹介しておりますが、以下、端末モードの選択などについて説明します。

2. 端末モードの選択について

Telnet コマンドでホストと接続後の「端末モード選択」について説明します。

Valid Terminal Types…端末モード選択メニュー	
01—LINE MODE (JIS7)	02—FULL SCREEN MODE (EUC)
03—FULL SCREEN MODE (SHIFTJIS)	04—FULL SCREEN MODE (ASCII)

(1) LINE MODE

従来からの利用と同じく、行毎にデータが送られるモードです。現在はコード体系が JIS7 のみであり、端末側で使用できるかマニュアルなどで確認願います。

JIS7 のコードについて

半角の英小文字	JIS X0201 で規定、片仮名への切替えは 16 進コード 0F で指定、16 進コード 0E で英小文字に戻る。
半角の片仮名	
全角の漢字	JIS X0208 (JIS83) で規定、漢字への切替えは 16 進コード 1B24420F で指定、16 進コード 1B284A0F で半角に戻る。

(2) FULL SCREEN MODE

画面毎のデータに加え制御コード (VT100 端末を仮定した画面消去、カーソル設定などの指示) が送られるモードです。端末側で使用できるコードを選んで下さい。

(a) 画面が追い込まれて表示される場合

SUN のコマンドツールなどで、スクロール可能としている場合、文字列が追い込まれて表示されることがありますので、シェルツールにするか、スクロール不可を設定して下さい。

(b) 画面書換え時

画面に 23 行文字列を表示し、画面が満杯となると、24 行目に *** を表示し、停止します。この状態で [RETURN] を押すと、次の画面を即座に表示することが出来ます。

3. 今後の予定

LINE MODE で扱えるコード体系を増やして、より使いやすくする予定です。

詳細が決まり次第、オンラインニュース、センターニュースなどでお知らせします。

(データベース課)

個別版 CD-ROM の開発

学術情報センターでは、目録所在情報サービス参加機関への新規サービスとして各機関の登録データを CD-ROM 化して検索ソフトと共に提供するよう平成 4 年度から準備を進めています。開発は第一期分の「CD-ROM 作成システムおよび検索システム」については終了しており、現在第二期分として「最新データに対する処理システム」の開発を行っています。今年の 11 月末を目処に開発を行う予定にしております。ここではその概要などについてお知らせいたします。

1. 目 的

当センターの目録所在情報サービスは各機関のご協力のもと順調に発展しており、昨年度の新規参加機関は過去最高の 60 機関を記録しました。最近の傾向として顕著な点は、比較的小規模な図書館がまずパソコンを 1 台導入してシステム化を行う、あるいはパソコンを複数台導入して目録業務を行い、今後のシステム化を進めていく第一歩としようという考え方です。昨年度新規接続機関の約三分の一がこのような形態での参加となっています。これらの図書館にとっては目録データの作成はとりあえずはできるが、作成したデータを自分の図書館の利用者にオンラインなどで公開するための仕組みまでは一気に用意できる状況にはないところが多いようです。そのため、センターでは主にローカルシステムとして OPAC (Online Public Access Catalog: 利用者用オンライン目録) を提供していない小規模図書館を対象に、パソコンと CD-ROM ドライブがあれば利用者に OPAC を提供できるようにすることを目的として、今回の個別版 CD-ROM システムを開発しました。

2. 概 要

2.1 開発経緯

開発に当たってはセンター内に研究開発部（宮澤教授、橋爪助教授）と目録情報課からなる CD-ROM 作成ワーキンググループを設置し、数回の会合を行って仕様を検討しました。センターではこれまでに学術雑誌総合目録の CD-ROM を「和文編試行版」「1989 年版」「全国調査用モニター版」と 3 回作成してきており、これらの経験を今回の開発に活かすようにしました。

また、この CD-ROM システムの対象機種としては小規模図書館のパソコン導入の実績などを考慮し、PC98 シリーズと他に比較的安価で導入できている DOS/V マシンおよび J3100 を選定することになりました。

2.2 システムの概要

センターで開発を行った第一期分には、CD-ROM 盤を作成するシステムとその CD-ROM を検索するシステムの二つがあります。各図書館には作成済の CD-ROM と検索ソフトを提供することになりますが、ここでは二つのシステムについてご紹介しておきます。

(1) CD-ROM 作成システム

CD-ROM 作成システムの主要部分はワークステーション上で動くようになっております。これはセンターがこれまでに開発を行ってきた「学術雑誌総合目録 CD-ROM 版」の作成システムがワークステーション上のシステムとして作られており、それとの連続性を考慮したことによります。

作成にあたってはまず目録システムから該当する参加機関のデータ（書誌・所蔵・典拠）

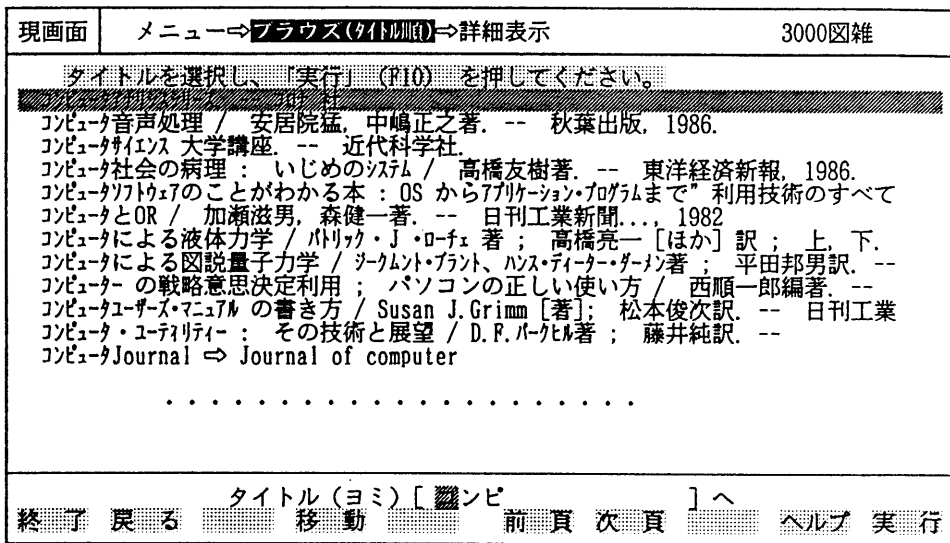
を抽出し、書名・著者名・出版者などのデータフィールドから必要な検索語を作成します。ここまでをホストコンピュータで行った後、ワークステーション上にデータを移して、加工・編集を行った上でCD-ROM 原盤に書き込みを行います。

1枚のCD-ROM には最大12の参加組織のデータを併せて書き込むことができますが、全体の件数として約15～20万件が上限となっています。

(2) CD-ROM 検索システム

CD-ROM 検索システムは大きく二つに分かれます。一つはブラウジング・リスト方式、もう一つがキーワード検索方式です。ブラウジング・リスト方式とキーワード検索方式のいずれの場合でも、あらかじめ初期設定画面で検索の範囲（参加組織と資料区分）を自由に指定することができます。

ブラウジング・リスト方式にはタイトル順と著者・団体名順と請求記号順の3種類が用意されていて、それぞれCD-ROM 内のデータを一覧リストの形式で表示するものです。書名あるいは著者名のヨミの先頭から数文字を指定すればその部分にカーソルが移動してくれまから初心者の方にとっては使いやすいものであろうと思われる。



ブラウジング・リスト（タイトル順）の画面例

もう一つのキーワード検索方式はこれまで作成してきたCD-ROM の検索システムと同様の考え方によって作成してあります。キーワードあるいはタイトル・著者・出版者などの欄に適切な語を入力して検索・表示する仕組みになっています。比較的検索に慣れた方が論理積・論理和などを活用しながら資料を探す場合に有効です。検索語は目録システムで作成される語のほかに、漢字部分を分かち書きしたもの、出版者のヨミ、件名のヨミなどが追加して作成されています。

現画面	メニュー⇒検索⇒簡略表示⇒詳細表示		3000図雑
検索語を入力し、実行 (F10)を押してください。			
キーワード	(コンピュータ+計算機) アルゴリズム		
タイトル			
著者			
出版者		出版年	
分類			
件名			
番号・コード		請求記号	
所在箇所			
終了戻るタリテ ヘルプ実行			

キーワード検索の検索語入力画面例

なお、この検索システムはMS-DOS (PC98 シリーズおよび J3100) と DOS/V の二つの OS に対応しています。

3. 今後について

3.1 今年度の開発について

今年度は第二期開発として、CD-ROM のデータが更新されるまでの間 (3～4 か月を予定) に目録システムに登録された新規追加データを、CD-ROM と共に検索できるように機能の追加を行います。新規追加データは各図書館においてパソコンのハードディスク内に累積し、センターから提供するプログラムを使って加工・編集すれば、CD-ROM と共に検索できます。

3.2 提供について

CD-ROM システムの提供開始時期は平成 6 年 4 月を予定しています。提供条件などについては次号以降のセンターニュースで詳細にお知らせする予定です。本システムのモニターについてはオンライン・システムニュースレターなどでお知らせします。

問い合わせ先：学術情報センター目録情報課専門・電子情報係

TEL : 03 (3942) 6987, 6988 FAX : 03 (3944) 7131

「化学センサーデータベース」のサービス開始

「化学センサーデータベース」の情報検索サービスを開始していますので、その概要などをお知らせします。

1. 概 要

(1) 収録対象

イオン選択性電極、酵素電極などの化学センサーに関する情報

- (a) バイオセンサー
- (b) イオン選択性
- (c) ガスセンサー (予定)

(2) 収録範囲

1975年以降のデータを収録、サービス開始時のデータ件数は8,780件

(3) 収録項目

検知物質、センサー形式、検出方法、応答時間、分析時間、繰り返し性能、検出感度、作動範囲などのセンサーの特性情報および典拠となった文献の標題、著者名、雑誌名、巻・頁などの文献情報

(4) その他

本データベースは、横浜国立大学化学データベース委員会が作成しているデータベースを、同委員会の協力を得て、サービスを行うものです。

2. サービス開始

平成5年6月1日から開始しています。データベースの内容および利用方法などについては、「NACSIS-IRデータベースシート(化学センサーデータベース)」をご覧ください。データベース呼び出しコマンドは「CHEMSENS」です。

3. 利用料金

データベースを呼び出す都度……30円/回

なお、利用に係る経費は、各データベースの利用額の月毎の合計額にその3%を加算した額となります。(データベース課)

SRCT : immobilized enzyme/Pt electrode
 TRSQ : $\text{Fe}(\text{CN})_6(4^-)/\text{Fe}(\text{CN})_6(3^-)$; H_2O_2 generated by the glucose oxidase reactor, $\text{H}_2\text{O}_2 + 2\text{Fe}(\text{CN})_6(4^-) + 2\text{H}^+ \Rightarrow 2\text{H}_2\text{O} + 2\text{Fe}(\text{CN})_6(3^-)$
 # by peroxidase
 TRNS : amperometry at ca. -50mV vs. Ag/Ag^+
 INSP : Sup= 0.1M phosphate buffer; pH= 5.5; Add= 1mM $\text{K}_4\text{Fe}(\text{CN})_6 + 0.1\text{M}$ NaCl; Sys= flow(1.5mL/min)
 MSIN : peak height
 NSCN : calibration graph
 LFTM : 6 months for the glucose oxidase reactor # retained over 90% of their original activities. 2 months for the peroxidase electrode # retained over 90% of their original activities.
 CRAN : 0.05g/L -- 10g/L

出力例 (データの一部)

「学位論文索引データベース」の改訂

すでにオンラインニュースでお知らせしておりますが、学位論文索引データベースの検索システムについて、以下のように改訂し平成5年7月12日よりサービスを開始しました。

1. 学位コードの桁数を変更

法律の改正により、平成3年7月以降に授与される学位の名称が、学位の種類（例えば文学博士）から博士の専攻分野（例えば博士（文学））となり、大学が任意に決められるようになりました。このため、学位の種類が急増しています。そこで、学位コードを2桁から3桁に変更しました。従来の学位コードは、先頭に‘0’を付加して3桁としています。学位コードを2桁で検索すると、検索結果集合が0件となりますので、注意が必要です。

例：文学博士を検索する場合

Search N.02 → Search N.002

博士（文学）を検索する場合

Search N.22 → Search N.022

2. 学位名称の単語からの検索

学位名称を単語から検索できるようにしました。プリフィックスは‘N.’です。

例：文学博士と博士（文学）を検索する場合

Search N.文学

3. コマンドの追加

以下のコマンドを追加しました。

コマンド	機能
?CHARGE	検索時間、利用料金を表示します。
?COMMAND	全コマンドの一覧を表示します。
?コマンド名	そのコマンドの機能および入力書式を表示します。
?ERROR	エラーメッセージの説明を表示します。
?HELP	ヘルプの一覧を表示します。
?ITEM	全項目の一覧を表示します。
?ITEM 項目記号	その項目の説明を表示します（コードの場合は内容の一覧を表示します）。
?SCRIPT	学術記号、特殊文字の検索・表示についての説明を表示します。

例：学位コードと名称の一覧を表示する場合

?ITEM DNAM

(データベース課)

「臨床症例データベース」のサービス開始

医学分野の学会誌に掲載される症例報告論文の全文を収録した「臨床症例データベース」のサービスについて、概要などをお知らせします。

1. 概 要

(1) 収録対象

医学分野の次の学会の発行する学会誌に掲載される症例報告論文を収録しています。

日本胸部疾患学会、日本産科婦人科学会、日本小児外科学会、日本新生児学会、日本内科学会、日本脳神経外科学会、日本泌尿器科学会、日本臨床血液学会。

(2) 収録範囲、収録件数

収録範囲は各学会誌毎に異なります。サービス開始時のデータ件数は約2,000件です。データベースの更新は年数回を予定しており、年間増加件数は約1,000件です。

(3) 収録データ項目

標題、著者名、所属機関名、掲載雑誌名、抄録、本文などの論文の全文をデータベース化しています。更に、図、表、写真などを含む雑誌の各頁を光ディスクに収録しています。

(4) その他

データベースの検索時にシソーラスファイルを利用することができます。また、検索後に、該当する雑誌の各頁をFAXに出力することができます。

なお、データベースの内容および利用方法などについては、サービス開始時に発行予定の「NACSIS-IR データベースシート（臨床症例データベース）」をご覧ください。

2. 利用資格

本データベースの利用は、医学系の研究者およびその代行検索を行う図書館職員に限ります。

3. 利用料金

データベースに接続している時間 … 50円/分

内容を端末に表示した件数 … 13円/件

(出力モードW、X、Yの場合を除く)

ファクシミリ出力をした枚数 … 34円/枚

なお、利用に係る経費は、合計額にその3%を加算した額になります。

4. サービス開始時期

平成5年10月を目処に準備を進めています。具体的日程などが決まり次第、オンラインニュースなどでお知らせします。
(データベース課)

「学術雑誌目次速報データベース（仮称）」の形成

学術情報センターでは、このデータベースの作成事業を平成6年度から開始することとなりましたので、以下に、その概要などをお知らせします。

1. 概 要

学術雑誌目次速報データベースは、研究者が必要とする基本的情報である、学術雑誌の掲載論文などに関する2次情報を収録するものです。対象とする学術雑誌については、国内外を問わず可能な限り網羅的に採録することを考え、なおかつ、速報性のあるものを目指しています。

データベースの作成については、全国の大学図書館等（以下、「図書館」という）の参加のもとに共同分担作成方式をとります。この仕組みにより、従来の2次資料には見当たらない網羅性と速報性を持つ総合データベースの作成が可能になるとともに、今後の学術情報の発信基地としての図書館の新たな役割が期待されます。

2. 経 緯

学術情報センターでは、大学等で刊行する紀要掲載論文のデータベース化について調査・検討してきましたが、その実現について専門家のご意見をうかがい、「大学図書館等との共同によりDB化を推進することには意義がある」「収録対象は紀要類に限定せずに、学術雑誌全般としたほうがよい」という方向づけが得られました。これを受けて、現在、図書館と共同して作成するための、できるだけ簡便で効率的な入力方法について検討を進めています。

一方、平成5年度の第40回国立大学図書館協議会総会（平成5年6月開催）においてこの事業の推進について賛同が得られました。今後は、国立のみならず公私立大学、短期大学、高等専門学校の図書館等に関しても、ご理解をいただく予定です。

3. 今後の計画

平成5年度には、このデータベースの形成に関する協議の場を設けて、実現のために必要な事項を検討していきます。また、その協議にもとづき必要とされる作成システムを開発し、試験運用を実施いたします。

平成6年からは、大学等の紀要を中心とした入力を開始し、このデータベースの作成を進めていく予定です。
(データベース課)

海外研究プロジェクトデータベースの現状

本データベースは、8カ国の政府関係機関等が助成する「研究プロジェクト情報の国際交換計画 (EXIRPTS)」の一環として作成されたもので、各機関で各国分の簡略なカタログデータを保有する一方、研究概要などを含む詳細な本体データは利用者の要求により電子メールで交換するという機能をもつものです(センターニュース第11号に概要、第13号に使い方、第15号にデータベースの形成について、第17号に本体データ請求サービスの一部開始について説明した記事を掲載しています)。

しかし、各国の同意に基づくこのEXIRPTS事業も、平成4年度には脱退を宣言する国が相次いで生まれ、従来と同様の形でのデータ交換が実質的に不可能となりました。そのため、このデータベースには最近のデータが収録されておりません。

今後、学術情報センターとしては各機関と個別の交渉を行い、データの収集を図る予定です。また、本体データの電子メールによる請求という本データベースに固有の機能についても変更の可能性があります。これらについては、対応が明らかになった時点で、随時、センターニュースなどによりお知らせいたします。
(データベース課)

平成5年度目録所在情報サービス利用説明会の開催

目録所在情報サービスの概要や接続方法を理解していただくため、私立大学、短期大学、高等専門学校等の未接続図書館を対象とした標記説明会を開催しておりますが、引き続き第5回、第6回の募集をいたしますのでご案内いたします。

また、平成5年8月1日から利用者の拡大により、新たに利用が可能となった国公立試験研究機関や都道府県・政令指定都市立の図書館もふるってご参加ください。

(1) おもな内容

- ①学術情報センターの概要、②目録所在情報サービスの概要と利用方法、
③学術情報センターとの接続方法、④利用申請方法、⑤質疑応答、個別相談

(2) 開催日時および申込締切

	開 催 日 時	募集開始	申込締切
第5回	10月8日(金) 13:10~16:30	8月2日(月)	9月24日(金)
第6回	11月19日(金) 13:10~16:30	8月2日(月)	11月5日(金)

なお、各回先着12機関とさせていただきますので、希望日を共同利用第一係まで電話(03-3942-6933)で予約(確認)のうえ、「目録所在情報サービス利用説明会参加」と明記し、①機関名、②機関の郵便番号および住所、③参加者の職名および氏名(3名以内)、④連絡先の電話番号、⑤接続予定の電算機(メーカー名、機種名、規模など)、⑥参加日(第○回○月○日)を記入して共同利用第一係までFAX(03-3942-6797)でお申し込みください。
(共同利用第一係)

NACSIS サービス Q&A

電子メール関係

質問 1

パソコン通信サービス (Nifty-serve および PC-VAN) とのメール交換は可能ですか。

Nifty-serve および PV-VAN とのメールの交換は可能です(ただし、国際電子メールの利用資格を必要とします)。

パソコン通信サービスとのメールの交換は、平成 5 年 7 月 17 日から当分の間の実験としてサービスを開始しております。

- (1) パソコン通信サービスへのメールの送信方法は次のとおりです。
 - ・ Nifty-serve への送信
メールの送り先指定の所で、次の形式のメールアドレスを指定してください。
xxxxxxx@niftyserve.or.jp xxxxxxxx の所は、Nifty-serve の ID です。
 - ・ PV-VAN への送信
メールの送り先指定の所で、次の形式のメールアドレスを指定してください。
xxxxxxx@pcvan.or.jp xxxxxxxx の所は、PC-VAN の ID です。
- (2) Nifty-serve および PV-VAN から学術情報センターの利用者へのメールの送信方法は各パソコン通信サービスのサービス案内により行ってください。
学術情報センターの利用者のメールアドレスは次のようになります。
xxxxxxx@sinet.ad.jp xxxxxxxx の所は、学術情報センターの利用者番号です。

質問 2

学術情報センターを大型計算機センターから第 2 センターとして申請しましたが、電子メールを利用しようとしたら、「電子メールの利用権がありません」が表示され利用できません。どのようにすれば、利用できるようになりますか。

- (1) 学術情報センターを第 2 センターとして申請された場合、電子メールシステムには、次のような利用環境が設定されます。
 - ・ TSS (電子メールシステムへの接続) 利用
 - ・ 国際電子メールの利用
 - ・ 電子掲示板サービスの利用
 - ・ ディレクトリサービスの利用
- (2) 上記のように国内電子メールの利用権については、次の理由により第 2 センターとして申請した時点では設定しておりません。
 - ・ 所属センター (各大型計算機センター) においても、学術情報センターが行っている国内電子メール (MHS メール) と同等のサービス (SIMAIL) を行っています。このため、すでに所属センターにメールボックスを設置している可能性があり、メールボックスの重複を避ける目的で学術情報センターにメールボックスを作成しないため、国内電子メールの利用権を設定しておりません。
 - ・ なお、国際電子メールサービスについても所属センターのメールボックスから利用することができます。

(3) 所属センターにメールボックスを設置していない場合には、利用者の判断のもとにメールボックスを以下の手順により学術情報センターに設置することができます。

- ・学術情報センターの情報検索システムに接続し「>>」が表示している所で次のコマンドを入力してください。

>> APMAIL

ただし、利用可能になるまでには、このコマンド入力後1週間程度の期間を必要とします。

質問3

電子メールシステム利用者マニュアルの英語版はありますか。

Is the User's manual for NACSIS-MAIL available in English language ?

現在、利用者マニュアルは日本語版のみ利用者に提供させていただいております。英語版の発行の要望もありますが、国内での利用が前提となっており、現時点では発行しておりません。

電話およびFAXなどによる相談も受付けておりますので、可能な限り対応させていただきます。

The Manual is provided in Japanese language only at present. Although there are demands for English manual, we haven't issued it because NACSIS-MAIL is designed on an assumption of domestic use. We will be consulted as much as possible. If you have any question, please feel free to contact us by telephone or facsimile.

phone : 03-3942-6944

System Management Section,

fax : 03-3942-9398

System Management Division,

Operations Department NACSIS

質問4

メールを送信しましたが、「配信不能」となり相手に送ることができません。どのようなことが原因でしょうか。

メールが相手に届けられない(配信できない)場合には次の2つの原因が考えられます。

- ・送り先名称が間違っている(送り先が存在しない)。

この場合は、配信不能通知メッセージで「OR 名不正」が通知されます。送信したメールの送り先の指定方法が間違っている可能性がありますので、利用者マニュアルにより確認し、正しい送り先を指定し、メールを再度送信してください。

- ・送信相手のメールボックスが満杯になっている(新しいメールを受信できない)。

この場合は、配信不能通知メッセージで「コンテンツ長過大」が通知されます(メッセージの表示と現象が一致しておりませんのでご注意ください)。

受信者側でメールボックスを整理(不要メッセージをメールボックスから削除)することにより、新たにメールを受信することが可能になります。電子メールシステムに接続した時点で、メールボックス中の受信メール数を表示しますが、その件数が概ね50件を越えると新しいメールを受信することができなくなりますので、ご注意ください。

なお、平成5年9月より、電子メールシステムに接続した時に表示するメールボック

ス内のメール件数に併せて、メールボックスへの蓄積容量が80%を越えた場合に、警告メッセージを表示する機能を追加しました。
(システム管理係)

学術情報ネットワーク関係

質問1

SINET ノードの集合型ルータに、他社製品のルータを使用して接続することは可能ですか。

今まで、集合型ルータを設置している SINET ノードに接続するためには加入機関側で準備するルータは、集合型ルータと同一メーカー（同系列）であることを前提としていました。これは、高速デジタル回線によるルータ間接続に、各社の独自仕様の HDLC (High-level Data Link Control) による通信方式を使用していることに起因しています。しかしながら、最近、PPP (Point to Point Protocol) と呼ばれる RFC (Request For Comments) で規定された共通の通信方式を搭載したルータが各社から提供され、異機種・他社製品などのルータであっても接続が可能になっています。SINET ノードの集合型ルータについても PPP を搭載しており、現在、一部の加入機関が本形態で接続を行っています。

他社製品のルータとの接続試験・検証も適宜行っていく予定です。技術的条件など、具体的な内容については、ネットワーク係までお問い合わせ下さい。

質問2

SINET に UUCP や SLIP で接続する場合の加入手続きはどうなりますか。

近隣の SINET 加入機関に UUCP や SLIP の接続環境の提供と協力を前提として、これらの接続形態で SINET に加入が可能であることは、センターニュース第 23 号でお知らせしたとおりです。また、近隣の SINET 加入機関の LAN に自機関の LAN を接続して SINET に加入することも可能です。これらの場合の加入手続きは、「学術情報ネットワーク加入申請書」に、当該 SINET 加入機関との相互接続が同意されている旨の書面を添付して、学術情報センターまで提出してください。

なお、相互接続の同意書様式などについては、ネットワーク係までお問い合わせ下さい。

(ネットワーク係)

NACSIS—IR データベース収納状況

平成5年7月23日現在

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
1	科学研究費補助金研究成果概要データベース	93,446	昭和60年度～
2	学位論文索引データベース	65,896	昭和59年度～
3	学会発表データベース	134,713	昭和62年3月～
4	学術論文データベース第一系 (全文) (電子関連) (抄録)	1,573 3,842	平成元年度～
5	学術論文データベース第二系 (化学関連)	11,401	昭和58年1月～
6	学術論文データベース第五系 (理学関連)	1,474	平成4年1月～
7	海外研究プロジェクトデータベース	80,972	平成4年1月末現在
8	民間助成研究成果概要データベース	1,095	昭和46年度～
9	経済学文献索引データベース	90,600	昭和58年4月～
10	学会予稿集電子ファイル	43,497	1969年4月～
11	雑誌記事索引データベース	936,845	1984年1月～
12	現行法令データベース	3,677	平成5年3月末現在
13	維新史料綱要データベース	23,089	
14	木簡データベース	14,574	
15	研究者ディレクトリ	130,109	昭和63年5月現在
16	データベース・ディレクトリ	1,327	平成4年4月現在
17	家政学文献索引データベース	19,751	1979年4月～
18	RAMBIOS	5,382	1983年4月～
19	化学センサーデータベース	8,780	1975年1月～
20	Life Sciences Collection	1,173,504	1982年1月～
21	MathSci	1,491,345	1940年1月～
22	COMPENDEX PLUS	2,541,430	1976年1月～
23	Harvard Business Review	2,660	1927年1月～
24	ISTP & B	2,065,366	1982年1月～
25	EMBASE	2,788,968	1984年4月～
26	SciSearch	4,528,287	1987年4月～
27	Social SciSearch	783,401	1987年4月～
28	A & H Search	715,341	1987年4月～

No.	データベース名称	収納件数	収録期間
29	目録所在情報データベース (和図書)	763,344 6,501,906	
30	目録所在情報データベース (洋図書)	1,788,079 4,250,456	
31	目録所在情報データベース (和雑誌)	73,542 1,521,431	
32	目録所在情報データベース (洋雑誌)	113,613 943,631	
33	科学技術関係欧文会議録データベース	34,254	昭和60年4月～
34	アメリカン・センター図書館総合目録データベース	6,451	平成4年6月末現在
35	JPMARC	1,341,536	1956年1月～
36	LCMARC (Books)	3,469,104	1968年1月～
37	LCMARC (Serials)	578,597	1973年1月～
38	学術関係会議等開催情報 (日本学術会議編)	7,422	1991年4月～
39	学協会集会スケジュール (日本工学会編)	437	1991年4月～

(注) No.29～32 のデータベースの上段は書誌件数、下段は所蔵件数。(システム業務係)

接続ニュース

前号以降、新たに目録所在情報サービスの参加機関となった図書館は、以下のとおりです。

(平成5年8月20日現在)

No.	機 関 名	接続日	No.	機 関 名	接続日
257	東京家政学院大学	5. 5.28	261	奈良先端科学技術大学院大学	5. 7.12
258	武蔵野女子大学	5. 6. 1	262	聖マリアンナ医科大学	5. 7.12
259	宇宙科学研究所	5. 6. 8	263	神戸女子薬科大学	5. 8.11
260	富山県立図書館	5. 6.25	264	清泉女子大学	5. 8.18

この結果、参加機関数は、国立大学97、公立大学17、私立大学118、共同利用機関12、短期大学7、高等専門学校3、その他10、合計264機関となりました。

(共同利用第一係)

NACSIS-CAT データベース構築状況

平成5年7月23日現在

データベース名称		収納件数	備考(収録期間等)	
総合目録データベース	和 図 書	書 誌	764,047	
		所 蔵	6,531,564	
	洋 図 書	書 誌	1,060,124	
		書 誌 (遡 及)	728,780	
		所 蔵	4,253,713	
	和 雑 誌	書 誌	74,331	
		所 蔵	1,533,400	
	洋 雑 誌	書 誌	117,871	
		所 蔵	1,077,362	
	著 者 名 典 拠		648,795	
統 一 書 名 典 拠		3,051		
和 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		8,670		
洋 雑 誌 変 遷 マ ッ プ		13,924		
参 照 フ ァ イ ル	LC / MARC	洋 図 書 書 誌	4,171,939	1968年1月~1993年7月
		洋 雑 誌 書 誌	578,597	1973年1月~1993年6月
		非 文 字 書 誌	150,129	1973年1月~1991年3月
		洋 書 著 者 名 典 拠	2,549,578	1977年1月~1993年7月
		洋 書 統 一 書 名 典 拠	137,732	1977年1月~1993年7月
	JP / MARC	和 図 書 書 誌	1,347,137	1956年1月~1993年7月
		和 雑 誌 書 誌	87,286	1968年8月~1992年2月
		和 書 著 者 名 典 拠	317,421	
	UK / MARC	洋 図 書 書 誌	1,330,410	1950年1月~1993年7月
	TRC / MARC	和 図 書 書 誌	323,010	1985年4月~1993年7月
GPO / MARC	洋 図 書 書 誌	322,602	1976年1月~1993年5月	

(システム業務係)

学術情報センター公開講演会

—学術情報のための情報サービス— 開催



学術情報センター公開講演会「学術情報のための情報サービス」が、去る6月3日（木）三田ホールにおいて開催され、約100名の参加があった。

猪瀬博所長の挨拶に引き続き、サー・ピーター・スウィナートン＝ダイアー教授（英国図書館研究開発部諮問委員会委員長・英国図書館情報サービス評議会議長）の講演が行われ、慶應義塾大学文学部田村俊作教授によるコメントがあった。

学術情報センター学術講演会

—時空の果てからの学術情報— 開催



古在国立天文台長



軽部東大先端研教授



田中文化鑑査官

学術情報センター学術講演会「時空の果てからの学術情報」が、去る7月1日（木）三田ホールにおいて開催され、約100名の参加があった。

西田龍雄副所長司会のもとに、猪瀬博所長の挨拶に引き続き、古在由秀国立天文台長による「マクロコスモスからの学術情報—天文学を中心とした学術情報—」、軽部征夫東京大学先端科学技術研究センター教授による「マイクロコスモスからの学術情報」、田中琢文化庁文化財保護部文化財鑑査官による「古代からの学術情報」の各々の講演があった。



挨拶をする猪瀬所長

平成5年度学術情報センターシンポジウム開催

平成5年度学術情報センターシンポジウムを下記のとおり開催します。

1. テーマ

「学術情報センター 創生期から躍動期へ」

2. 講演

- (1) 学術情報ネットワークの役割とその整備について
- (2) オープンシステム構想
- (3) 情報検索サービスの今後の展開
- (4) 目録所在情報サービスの現状と将来構想
- (5) 学術情報センターの利用者拡大について

3. 日時・場所

・神戸会場

11月18日(木) 10:00~16:00

神戸国際会議場(定員 120名)

神戸市中央区港島中町6-9-1

・東京会場

11月24日(水) 10:00~16:00

日本大学会館(定員 300名)

千代田区九段南4-8-24

4. 参加申込み

参加をご希望の方は、FAX またはハガキに(1)参加会場名、(2)参加者氏名、(3)勤務先または所属機関の名称と所在地、(4)職名、(5)連絡先電話番号を明記のうえ、学術情報センター共同利用課研修係までお申し込みください。

参加費は無料です。

5. 申込締切

11月1日(月)

6. 申込み・問い合わせ先

〒112 東京都文京区大塚3-29-1

学術情報センター共同利用課研修係

電話 (03) 3942-6935, 6936 (直通)

FAX (03) 3942-6797

平成5年度前期会議などの開催

運営協議員会

平成5年度前期の学術情報センター第20回運営協議員会は次のような審議・報告を行った。

1. 第20回（平成5年6月23日）於：学術情報センター分室会議室
- 議事
1. 前回会議議事要録の確認について
 2. 教官の人事について
 3. 平成5年度事業計画の概要について
 4. 平成5年度の共同研究について
 5. 平成6年度概算要求の概要について

評議員会

平成5年度前期の学術情報センター第16回評議員会は次のような議事について審議を行った。

1. 第16回（平成5年6月24日）於：学術情報センター分室会議室
- 議事
1. 前回会議議事要録の確認について
 2. 教官の人事について
 3. 平成5年度事業計画の概要について
 4. 平成6年度概算要求の概要について

参 与 会

学術情報センター参与会（第5回）は次のような話題について意見を交換した。

1. 第5回（平成5年6月28日）於：学術情報センター分室会議室
- 議事
1. 平成5年度事業計画の概要について
 2. 平成6年度概算要求の概要について

人 事 異 動

発令年月日	氏 名	官 職 名	旧 官 職 名
(所内異動)			
5. 6. 1	永井 善一	事業部システム管理課	事業部データベース課
	細川 聖二	事業部データベース課	事業部目録情報課
(昇任)			
5. 7. 1	高須 淳宏	研究開発部研究動向調査 研究部門助教授	研究開発部システム研究系 システム工学研究部門助手

海外渡航一覧

4.27～5.2	猪瀬所長 (米国)		佐、貝田システム管理課国際
6.1～6.11	高須助手 (英国)		情報専門員 (韓国)
6.1～6.13	山田研究開発部長 (米国)	7.9～7.17	高須助教授 (米国)
6.5～6.19	浅野教授 (米国)	7.9～8.11	宮澤教授 (英国)
6.6～6.20	西田副所長、岸田助手 (ロシア)	7.17～7.23	相澤助手 (米国)
		8.15～8.22	小野教授 (米国)
6.13～6.18	宮澤教授、濟賀システム管理課長、星野目録情報課課長補	8.18～8.27	浅野教授、相澤助手、趙助手 (米国)

学術情報センター日誌

- 5.10 台湾 China Textle Institute, Tu, Wen-Ling 氏他2名来訪
- 5.18 仏国 Universite des Science et Techniques, Christian Sches 氏他1名来訪
- 5.20 ドイツ国 German Federal Ministry for Research and Technology (BMFT), Engelbert Beyer 氏来訪
- 5.20 米国 KETRON Division of The Bionetics Corp., Lawrence E. Garfield 氏他2名来訪
- 6.1 第1回 ILL システム講習会 ～2
- 6.1 スウェーデン国 NUTEK, Technology Policy Studies, Lennart Sternberg 氏来訪
- 6.3 学術情報センター公開講演会 (三田ホール)
- 6.3 英国図書館研究開発部諮問委員会、図書館情報サービス評議会 Henry Peter Francis Swinnerton-Dyer 氏他1名来訪
- 6.10 第1回電子メールシステム講習会 ～11
- 6.11 仏国 Universite de Lyon, V. M. Nigon 氏来訪
- 6.15 NACSIS-IR 講習会基礎コース I ～16
- 6.21 第2回目録システム講習会 ～25
- 6.23 第20回運営協議員会
- 6.24 第16回評議員会
- 6.28 参与会 (第5回)
- 6.30 中国西安電子科技大学徐国華氏他3名来訪
- 7.1 学術情報センター学術講演会 (三田ホール)
- 7.7 文部省佐々木会計課長他1名来訪
- 7.8 第2回 ILL システム講習会 ～9
- 7.12 仏国フランス科学研究庁日本支部 Jean-Francois Sabouret 氏他1名来訪
- 7.19 第3回目録システム講習会 ～23
- 7.21 文部省学術情報課上田学術情報企画官来訪
- 7.27 大学図書館職員長期研修 (会場: 学術情報センター) ～28
- 8.2 第2回電子メールシステム講習会 ～3

学術情報センターニュース (第25号)

1993年9月17日発行

発行人 猪瀬 博

発行 学術情報センター 東京都文京区大塚3丁目29番地1号 (〒112)

電話 (03)3942-6937 (直通) 情報・資料係